

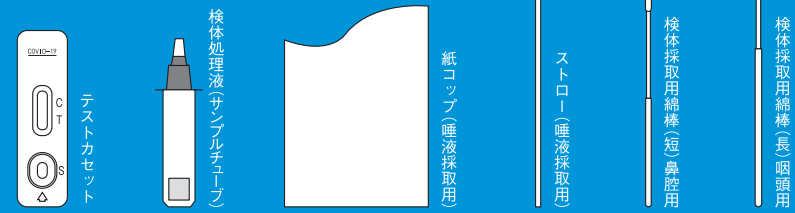
抗原検査キット3 検査手順説明書

説明書以外の使い方をした場合は、判定結果がエラーになりますので、説明書を最後までよく読んでご使用ください。特に下記事項については注意してご使用ください。

- 室温15～30℃の部屋で、キットを平らなところに置いてください。
- 開封してから1時間以内に検査を終了させてください。
- 下記手順3方式のうち、いずれかひとつの方法にて検査を実施してください。
- 抽出液の滴下は3～4滴とし、5滴以上は滴下しないでください。判定結果にエラーが出ます。
- 滴下後はテストカセットを動かさないでください。
- 20分以上経過した後の出現は判定には使用しないでください。



内容物と各キット名称をご確認ください。
(3検査方式/3種類)



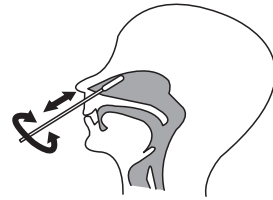
本キットは
1人用・1回分
です

変異株
対応品

※パッケージ裏面の注意書きも併せてよくお読みいただき、ご使用される方ご自身の責任のもと、適切にご使用ください。

鼻 からの検体で検査をする場合

検体採取用綿棒(短)鼻腔用を使用します。



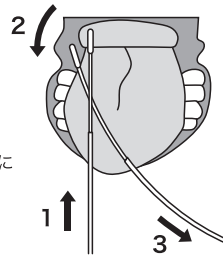
鼻咽頭スワブ検査

- ① あごを少し上にあげる。
- ② 検体採取用綿棒(短)を図のように鼻の穴から挿入する。
- ③ うまく入ると、検体採取用綿棒の先がのど上に来ている感覚があるので、その状態で検体採取用綿棒を5回ほど回転させる。
- ④ 検体採取用綿棒を抜く。

※ 奥までずると入らず、うまくいかない場合は、鼻の穴の左右を変えてみてください。
右の鼻の穴の場合は右の端、左の鼻の穴の場合は左の端を狙うと入りやすい場合があります。

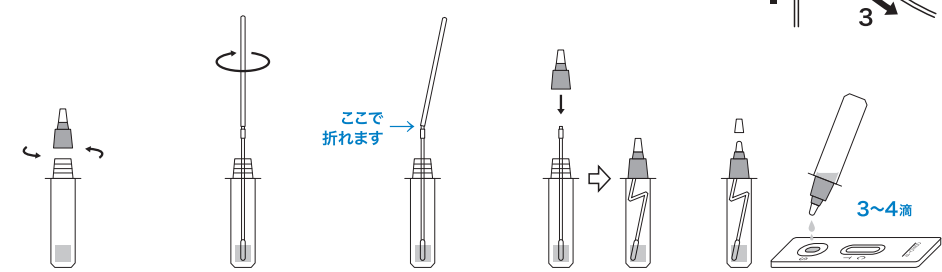
喉 からの検体で検査をする場合

検体採取用綿棒(長)咽頭用を使用します。



中咽頭スワブ検査

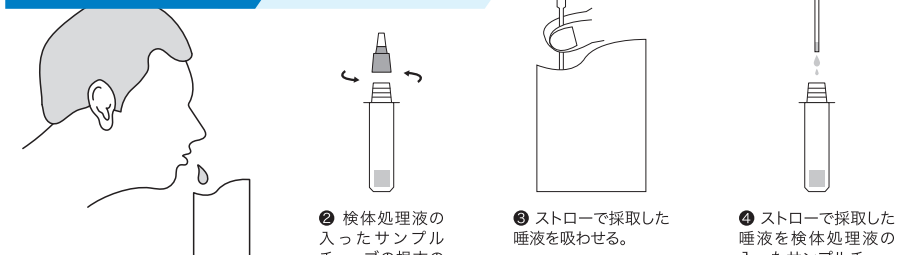
- ① あらかじめ口腔をきれいにします。
- ② 検体採取用綿棒(長)を舌根から通し右図の手順で、咽後壁または扁桃腺の陰窩、側壁などに3～5回繰り返してすりつけ、粘膜細胞を採取する。



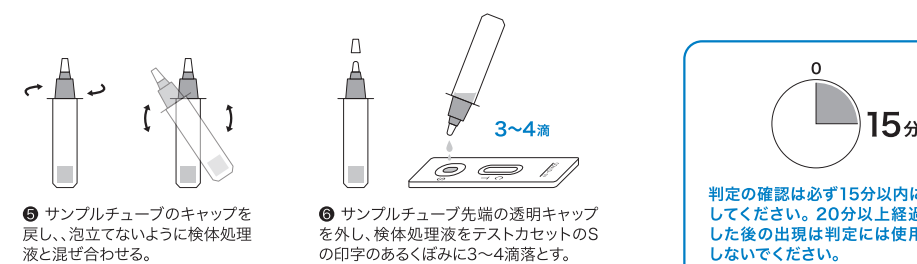
- ① 検体処理液の入ったサンプルチューブの根本のキャップをねじ開ける。
- ② 検体採取用綿棒を検体処理液につけ、泡立っていないように5回以上回す。
- ③ 検体採取用綿棒の取手部分を折って捨てる。
- ④ 残った綿棒を押し込みながら、サンプルチューブのキャップを戻す。
- ⑤ サンプルチューブ先端の透明キャップを外し、検体処理液をテストカセットのSの印字のあるくぼみに3～4滴落とす。

唾液 からの検体で検査をする場合

紙コップとストローを使用します。



- ① あらかじめ口腔をきれいにし、唾液を紙コップの中に入れる。
- ② 検体処理液の入ったサンプルチューブの根本のキャップをねじ開ける。
- ③ ストローで採取した唾液を吸わせる。
- ④ ストローで採取した唾液を検体処理液の入ったサンプルチューブに入れる。



⑤ サンプルチューブのキャップを戻し、泡立ないように検体処理液と混ぜ合わせる。
⑥ サンプルチューブ先端の透明キャップを外し、検体処理液をテストカセットのSの印字のあるくぼみに3～4滴落とす。

15分

判定の確認は必ず15分以内にしてください。20分以上経過した後の出現は判定には使用しないでください。

15分後、結果判定

- C+ T+ 新型コロナウイルス抗原の存在を示します。
- C+ T- 新型コロナウイルス抗原が検出されなかったことを示します。

※「C」に線が現れなかった場合は、判定が無効です。新しい検査キットで再度検査してください。

※検体の量が適量でない場合や、正しい検体採取がおこなわれていない場合は、判定結果がエラーになりますのでご注意ください。

